

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 医療栄養学科 臨床検査学専攻

熊取 厚志*

はじめに

鈴鹿医療科学大学は、三重県の中北部で名古屋から近鉄本線の特急で伊勢に向かう途中約40分に位置する鈴鹿市にあります。鈴鹿市は、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈と自然環境に恵まれると共に、自動車産業や自動車レースの最高峰であるF1(グランプリ)や鈴鹿8時間耐久ロードレース等が行われる鈴鹿サーキットがあり、日本のモータースポーツの聖地とも言われています。本稿では、本学保健衛生学部医療栄養学科臨床検査学専攻についてご紹介させていただきます。

I. 本学の沿革と概要

鈴鹿医療科学大学は、1991年(平成3年)に「科学技術の進歩を、真に人類の福祉と健康の向上に役立たせる」という建学精神に基づき創設された4年制医療系大学で、千代崎キャンパスと白子キャンパスからなります(写真1、2)。

開学時は2学部4学科でしたが、現在は放射線技術科学科、医療栄養学科(管理栄養学専攻、臨床検査学専攻)、リハビリテーション学科(理学療法学専攻、作業療法学専攻)、医療福祉学科(医療福祉学専攻、臨床心理学専攻)、鍼灸サイエンス学科(鍼灸・スポーツトレーナー学専攻、鍼灸学専攻)、救急救命学科の6学科8専攻からなる



写真1 千代崎キャンパス



写真2 白子キャンパス

保健衛生学部、臨床工学科と医療健康データサイエンス学科(旧医用情報工学科)の2学科からなる

* 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 医療栄養学科 kumatori@suzuka-u.ac.jp

医用工学部、薬学部・薬学科、看護学部・看護学科と4学部、10学科8専攻を有する「医療・福祉の総合大学」となりました。また、大学院には医療科学研究科・医療科学専攻と薬学研究科・医療薬学専攻を設け、修士と博士の養成のみならず細胞検査士や公認心理師・臨床心理士の資格取得支援も行っています。加えて桜の森病院、鍼灸治療センター、こころのクリニック(精神科・心療内科)、こころの相談センターを付属施設として、関連施設として社会福祉法人サルス会桜の森白子ホームを有し、地域の医療・福祉にも直接貢献しています。さらに医療科学を広い視野から考察し発展させるために、東洋医学と西洋医学との学術的融合を目指した東洋医学研究所も設けられています。

本学は、建学精神のもと「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を教育理念に「高度な知識と技能を修得する」、「幅広い教養を身につける」、「思いやりの心を育む」、「高い倫理感を持つ」、「チーム医療に貢献する」の5つの具体的な教育目標を掲げ、2014年(平成26年)からはじまった、すべての医療・福祉専門職に共通する、必要な知識・技能・態度を学部・学科の垣根を越えて共に学ぶカリキュラムである「医療人底力教育」に加え、近年の医療・福祉分野のめざましい進歩に対応できる人材を養成するための様々な取り組みを行っています。

II. 医療栄養学科とその特色

医療栄養学科は、2011年(平成23年)4月から、管理栄養学専攻(管理栄養士養成課程)に、新たに臨床検査学専攻(臨床検査技師養成課程)を加えた2専攻体制となりました。この生まれ変わった本学科の目指すところは、両専攻の教員・学生が融合して作り出す独自性にあります。管理栄養士は、健康な人だけではなく、病気や怪我をした人等、特別の配慮が必要になる人々に対して科学的根拠、即ち臨床検査データに基づき栄養指導を行う必要があります。本学科では臨床検査のスペシャリストである臨床検査技師の資格を持つ教員が臨床検査データの意義や解釈の仕方等について管理

栄養学専攻の学生に対しても手厚く指導を行っています。一方、臨床検査技師は、近年NST(栄養サポートチーム)や糖尿病教室といった栄養関連のチーム医療に参加することが増えてきました。本学科では食と栄養のスペシャリストである管理栄養士の資格を持つ教員が臨床栄養学や食品学等、食と栄養関連の授業を臨床検査学専攻の学生に対しても身近な存在として丁寧に指導を行っています。また、チーム医療に関する講義や演習を合同で実施したり、他専攻の専門科目を聴講する機会も設けています。加えて、卒業研究ではどちらの専攻の研究室にも所属可能であり、研究面での融合も行っています。この様な取り組みに両専攻の教員が積極的に力を合わせることは当然ですが、学生たちもこの意図をくみ、両専攻の学生・教員混成のチーム編成での球技大会や運動会を実施する等、絆を深める取り組みを行っています。

III. 臨床検査学専攻の教育内容とその特色

1年次には、化学、生物学、情報科学等、専門科目を学ぶために必要な基礎知識の修得と共に、本学独自のカリキュラムである「医療人底力教育」により、接遇・救急救命・介護等、医療・福祉の専門職に共通に必要な知識・技能・態度を合同講義や学科・専攻混成のグループで行うアクティブラーニングにより身につけます。加えて、微生物学、解剖組織学、生理学等の専門基礎を身に付けます。2年次には、国家試験に直結する臨床検査学全域にわたる専門知識を修得するので登竜門とも言われています。3年次は学内での実習や実験を通じて知識の確認と臨床検査技術を習得した後、臨床実習に出向きます。臨床実習ではこれまで得た臨床検査の知識や技能が実際の現場でどの様に活用されているかを知ると共に、臨床検査技師の先生方が実際に活躍する姿を見て将来像が明確になるので、帰って来た学生の目は輝いています。4年次に入って、臨床実習の成果を生き生きと発表した後(写真3)、国家試験合格に向けて総合的に学修します。同時に、基礎医学や臨床医学の研究の場でも活躍できる高度な学力と応用力を



写真3 臨床実習報告会

身につける卒業研究と就職活動を並行しながら行います。このような教育プログラムで患者の救命に必要な臨床検査を迅速かつ正確に精度よく実施できる臨床検査技師を養成しておりますが、その中に含まれる特色の中から2点を選んで紹介します。

1. 臨床検査学と食品・栄養学を協調させて思考できる臨床検査技師の育成

近年、生活習慣病だけではなく様々な病状の改善や合併症の予防に栄養状態が大きく関わっていること、即ち、治療において栄養面の改善が極めて重要であることが再認識されています。そして多くの医療施設では、データに基づく適切な栄養管理が求められる栄養サポートチームや糖尿病透析予防チーム等のチーム医療が実施されています。臨床検査技師はそれらのチームの一員として、血液等の検査結果を分析し、患者の栄養状態や全身状態についての情報を提供します。その際には食と栄養に関する知識も求められますが、本専攻では管理栄養士として現場経験が豊富でかつ身近な存在である管理栄養学専攻の教員からこれらの知識を気軽に学ぶことができます。その結果、臨床検査学の視点と食品・栄養学の視点を協調させて思考する能力を身に付けることができます。加えて、食と健康のエキスパートである「食の安全管理士/健康食品管理士」(日本食品安全協会認定資格)や「日本独自の薬膳」を医療や福祉施設等で実践できる人材である「医療薬膳師」(一般社団法人日本薬膳学会認定資格)の受験資格を得ること

もできます。

2. ゲノム医療、再生・細胞医療にも貢献できる臨床検査技師の育成

遺伝子情報を基により迅速・正確な病気の診断や効果的な治療を行える様になるゲノム医療や、疾病や傷害により欠損し、または機能しなくなった臓器や組織を再建する再生・細胞医療はこれからの医療を大きく変え得る医療であります。そして、近年これらの先進医療を支える医療技術者の重要性和必要性が増して来ています。臨床検査学専攻では、早くから遺伝子検査学、再生医療技術学の講義と実習(細胞培養や細胞分化技術等)を科目に組み入れています。そのため、これらの先進医療を支える医療技術者としての礎となる知識や技能を身に付けることができます。

おわりに

超高齢化社会を迎えた日本において、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間、即ち「健康寿命」を延伸する必要があります。その為には蔓延する生活習慣病を中心とした疾患への対応が不可欠であり、それには医療機関や在宅での適切な診断・治療と健康診断等による予防が科学的根拠、即ち、臨床検査データに基づき行われなくてはなりません。また、ゲノム医療、再生・細胞医療、そして人工知能(AI)医療の普及により今後医療全体が大きく変革します。

本専攻では、臨床検査学の高度な知識と技術はもとより、食品・栄養学的視点からも考察でき、多職種協働・チーム医療で活躍でき、自分らしい付加価値を付けて仕事ができ、時代の変化に対応できる基礎力、応用力、柔軟性を兼ね備え、そして倫理観溢れ誠実で人間性豊かな臨床検査技師の育成を丸となって目指しています。

文 献

- 1) 鈴鹿市観光協会ホームページ。
<https://www.kanko.suzuka.mie.jp/>
- 2) 鈴鹿医療科学大学学部・大学院ホームページ。
<https://www.suzuka-u.ac.jp/academics>